



完全保存版 「自然素材住宅塾」



今の住まいと将来の住まいに役立つ情報満載

こんにちは。駿河屋の九代目当主一樹です。

梅雨が明けて夏本番が始まりました！皆さんは熱中症対策など、どうやってされていますか？

外出時はいろいろと対策すると思いますが、自宅で省エネを意識するばかり、熱中症になる高齢者もいると聞きます。

今日は夏に大活躍するエアコンの使い方を勉強してみましょう。

それでは、今月も子育てママにお役にたてる、おうちの中で大切なこと、発信します！

【エアコンで省エネ 実は・・・が大切なんです】

みなさんは、エアコンで省エネというと、何を思い出しますか？

室内温度は28度に設定！我慢我慢！省エネって辛い～ 暑い～(;´Д`A
を思い浮かべる方！

この方法は熱中症になってしまう可能性がありますね。

やはり冷房の省エネは室内ばかりを考えがちです。しかしそれでは非常にエネルギーを無駄にしている時があるんです。それはどういうことでしょうか。

温度設定を高くする「我慢の省エネ」をしなくても、快適に省エネできる工夫があるので、今日はソコをお伝えします。

エアコンの使い方は、部屋にいるときにスイッチをON。外出時はスイッチOFFにしている方がほとんどだと思いますが、外出時は設定温度を少し上げて、エアコンをかけたままのほうが電気を消費しません。

そもそも家電は電源を入れた時が一番電気を消費しますし、一旦あたたまった部屋を冷やすには、エネルギーを沢山消費するからです。

また、扇風機などを使って部屋全体を均一な温度にすることも効果的です。冷たい空気が下に行き、暑い空気が上にたまり、エアコンのセンサーはそれを感知して一生懸命に電気を使って冷やす努力をしています。エアコンのファンは上向き、もしくは水平にしながら、扇風機で部屋全体の空気をまんべんなくしましょう。

エアコンは、室内機と室外機で熱を交換して室内を冷やしてます。
なので、室内と室外の温度差が小さければ小さいほど、効率がよくなるんですね。
つまり、電気代を安く抑えることができます。
なぜかよくわからないという方は、「あーそういうもんなんだ」程度で結構です。
でも、そうした観点で考えると、スタレを下げて室内に直射日光を入れないという意味もよく理解できると思います。

では室外はどうでしょう。
室外機に直射日光が当たっているならば、室外機の温度がどんどん上昇し、室内との温度差がどんどん大きくなります。
そこで、エアコンが頑張ると、電気を沢山つかってしまうのです。
それでは室外の温度をさげるの???・・・そうではありません。
室外機本体の温度があがらないよう、室外機に日よけをつけるんです。

スタレを立てかけてもいいですし、室外機の上に板を乗せてもいいです
室外機が日陰になるようにすることがコツです。
ここで気をつけなければならのが、「室外機から出てくる熱風がこもらないようにする」ことが大切です。

せっかく日陰にしても、熱風が渦巻いてしまっは、かえって温度が上昇してしまいます。必ず通風が出来るようなスペースを確保するのを忘れないようにしてくださいね。必要な寸法はメーカーの取り扱い説明書に出てますので確認してみてください。

それと、室外機がコンクリートの上に直接設置されていると、コンクリートの照り返しの影響も受けますので、設置場所に遮熱塗料を塗るのも効果的です
また、エアコンの天板に水をかけるという方法がありますが、カルキを抜く必要があったりと、いろいろ面倒です。興味のある方は試してみてくださいね。

家づくりをきっかけに「体と心がよろこぶ暮らし」を考える

創業 1657年 株式会社駿河屋 〒131-0033 東京都墨田区向島 1-24-16

TEL03-5637-1179 <http://www.surugaya-life.jp>

